

学校 教育 目標	「互いのよさを認め合い、生き生きと学び合う子」 ○自分らしさを発揮し、互いのよさを認め合う子どもを育てます。(知) ○豊かな体験をもとに、自ら考え判断し、ねばり強く行動する子どもを育てます。(徳) ○健康を考え、生命と体を大切に育てます。(体) ○まちとのふれあいを大切にして、共に生きようとする子どもを育てます。(公) ○コミュニケーションを通して、社会への視野を広げる子どもを育てます。(開)				
学校 概要	創立 31 周年	学校長 田島 馨	副校長 下倉 優	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 343 人 主な関係校: 奈良中学校 奈良小学校 恩田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	奈良中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力>	奈良中学校 奈良小学校 恩田小学校 桂小学校	「ひと・もの・こと」との関わりを通して、 豊かなコミュニケーションができる子ども ○様々な視点で「観」の共有を図り、義務教育9年間で子どもを育む。 ・「Y-P 関連資料」等のデータをもとに小中ブロックで一人ひとりの子どもの姿を共有し、子どもの成長を支援する。 ・「ICT の活用」、「主体的・対話的な学び」をテーマに小中授業研を行い、授業改善を図る。 ・小中で「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」等を共有し、継続した特別支援の充実を図る。

中期 取組 目標	○学習過程の中で、自ら問題を発見し仲間と協働しながら課題解決に向けて生き生きと学び合い、解決手段を見出す力を育てます。 ・発達段階に合わせた教科等横断的に育む資質・能力を、学習状況調査等のデータや子どもの自己評価や意見等も組み込むことで明確にし、各教科領域において力を伸ばす指導を行います。 ○ICTを用いた授業実践や、児童のアセスメント等におけるデータの活用を通して、教育DXを推進します。 ○「人」とのつながりを大切にし、豊かな体験を通して、自分らしさを発揮しようとする力を育てます。 ・体験的な学習を軸に、活動に子どもの声を取り入れながら、他者と主体的につながり、学びを深めていきます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 学習評価・重点研	①学習状況調査や学校評価アンケートの結果を分析し、家庭とも連携しながら、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。②「自ら課題を発見し、課題解決に向けて生き生きと学ぶ子」を目指して、学びのプロセスや「桂小版振り返りの視点」を活用し、主体性や自ら解決しようとする力を育む。
徳 豊かな心 担当 道徳部	①道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②人権・福祉教育を通して人権感覚を高める。③縦割りグループ、主にペア学年を中心とした異学年交流活動を通して、思いやりや協力する心、責任感を育成する。④保育園との交流事業を充実させ、相手意識をもった豊かなかかわりをもつようにする。
体 健やかな体 担当 体育部	①体力テストの結果を継続的に記録・蓄積し、そのデータを基に自分の体力の状況を振り返る時間を確保することで、児童が主体的に体力の向上に取り組めるようにするとともに、その成果を体育科の指導改善に生かしていく。②多くの児童が参加できる「桂ギネス」を実施することで、体を動かすことの楽しさや達成感を味わわせ、運動への意欲を高める機会を設定する。③マラソン週間やなわとび集会を計画的に実施することにより、日常的に体を動かす機会を増やし、運動の楽しさに継続して触れられるようにする。
公 地域学校 協働活動 担当 地域連携	①中学校ブロック学校運営協議会を軸として、近隣校及び地域とのつながりをより活性化し、連携の充実を図る。②学校HPや動画配信等を活用し、適切な方法で学校の教育活動を保護者・地域に広く発信していく。③地域コーディネーターと協働し、地域の「材」を学習に生かす。
いじめへの対応 担当 児童指導・特別支援教育	①些細な兆候を見逃さないように、児童の様子や人間関係の把握に努めるとともに、アンケートも活用し、いじめ防止対策委員会を通して職員間で情報共有を図り、いじめの予防と早期発見につなげる。②ブロックで取り組む「子ども会議」から、教職員・保護者・地域と共に子ども自身がいじめの未然防止に取り組む意識を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 教務部・メンターチーム	①チーム学年経営、学年内の教科分担任制を軸に、より質の高い授業の提供と教員の業務負担軽減を目指す。②ICTを活用したペーパーレス化やスムーズな会議運営、スケジュール管理による教職員の多忙化解消を図る。③主幹教諭や第三ステージの教員が講師となり、メンターチームの自主的な活動を支援する。
児童指導 担当 児童指導・特別支援教育	①桂小スタンダードを全職員で共有し、その必要性の共通認識をもとに指導にあたる。②職員会議内に児童理解の時間を定例化し、児童の状況を全教職員で共通理解する。③Y-Pアセスメント、学校生活アンケートを年間計画に位置付け、データも活用した多面的な児童理解を具体的な支援・指導に生かす。
特別支援教育 担当 児童指導・特別支援教育	①各ブロック(低・中・高・個別)のコーディネーターが中心となり、児童の情報共有をし支援にあたる。また、個別の教育支援計画・指導計画の作成とその活用を図る。②特別支援教育研修を行い、合理的配慮や支援について具体的に考える場を設定する。③個別に配慮が必要な児童に対する支援体制を確立し、検討・改善を図る。
教育DX推進 担当 GIGAスクール・情報視聴覚	①「個別最適化学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるための一人一台端末の効果的活用方法を、日々の授業や重点研究会を通して追究する。②児童が自己調整できる力を育むために、振り返りや他者参考をICT活用により行えるようにする。
担当	